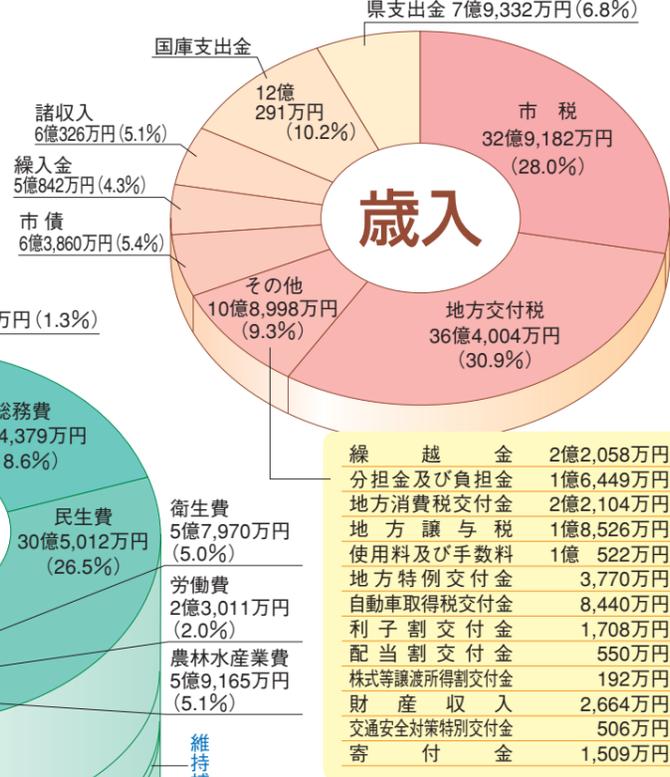


平成20年度の決算状況

市では、年2回市の財政状況を公表しています。今回は、平成20年度の一般会計・特別会計の決算状況をお知らせします。

歳入総額 **117億6,835万円** (純計額1,150万円)

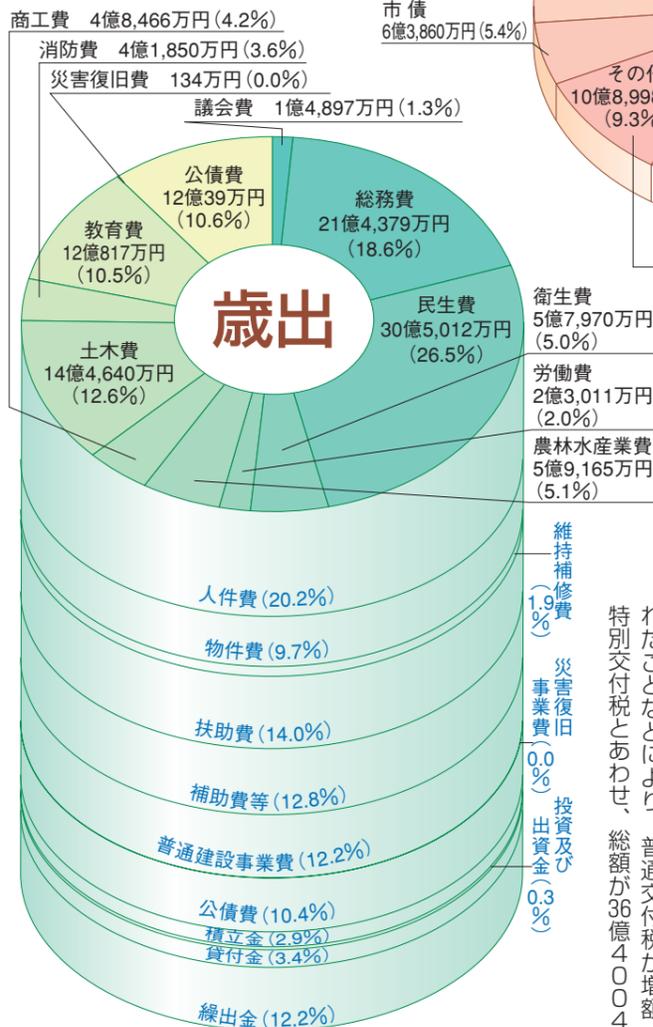


繰越金

繰越金	2億2,058万円
分担金及び負担金	1億6,449万円
地方消費税交付金	2億2,104万円
地方譲与税	1億8,526万円
使用料及び手数料	1億5,222万円
地方特例交付金	3,770万円
自動車取得税交付金	8,440万円
利子割交付金	1,708万円
配当割交付金	550万円
株式等譲渡所得割交付金	192万円
財産収入	2,664万円
交通安全対策特別交付金	506万円
寄付金	1,509万円

一般会計

歳出総額 **115億380万円** (純計額1,150万円)



総括
平成20年度勝山市一般会計決算は、歳入が117億6835万円、歳出が115億380万円となり、歳入で3.2%の増、歳出で2.9%の増(前年度比以下同じ)となっています。歳入歳出の差引きのうち翌年度へ繰り越さなければならぬ財源1億2426万円を引いた1億4029万円が実質的な黒字となっています。

歳入
市税は、法人市民税が経済情勢悪化の影響を受け減額、固定資産税でも地価下落に伴う土地価格修正の影響などにより減額となり、総額が32億9182万円、8570万円、2.5%の減となりました。自主財源は49億3552万円、自主財源比率は41.9%となっています。

地方交付税は、地方再生対策費が創設されたことにより、普通交付税が増額、特別交付税と合わせ、総額が36億4004万円となりました。

歳出
総務費および商工費が大幅な増額となりました。

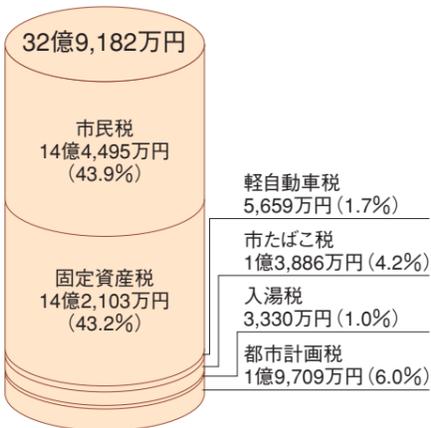
総務費では、国の緊急経済対策による定額給付金給付事業分が大幅に増額、その他にも市民会館および市役所庁舎のエレベーター設置工事、光プロードバンド設備の補助金などで、総額2億4379万円(4億779万円、23.5%の増)となりました。商工費では、工業振興助成金および温泉センター「水芭蕉」の大規模改修工事などで増額となり、総額4億8466万円(1億3346万円、38.0%の増)となりました。

その他の事業として、子育て支援策では、新規事業として取り組んだインフルエンザの予防接種の助成に147万円を支出しました。また、平成20年度から5か年をかけて取り組む史跡白山平泉寺境内の総合整備に3736万円を支出しました。

財政調整金残高は、1億7209万円、11.0%の減となり総額13億9022万円となっています。

一般会計の市債残高は、93億7908万円(3億8730万円、4.0%の減)となっています。このうち臨時財政対策債を除いた残高は67億8322万円(5億5211万円、7.5%の減)で、8年連続の減となっています。

市税の収入状況



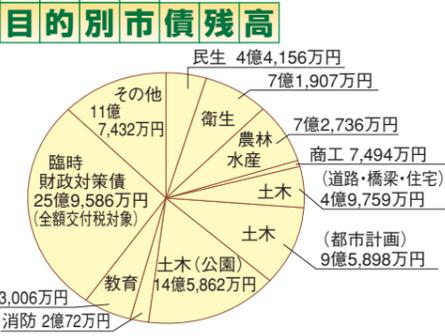
市債残高の状況

一般会計	93億7,908万円
下水道事業	63億3,110万円
簡易水道事業	1億5,258万円
農業集落排水事業	14億3,935万円
市有林造成事業	5,134万円
合計	173億5,344万円

財政指標のうち経常収支比率が99.6%で、前年度比9.4%の大幅な上昇となっていますが、これは下水道事業および農業集落排水事業特別会計への繰出金のうち経常経費として扱われる経費が見直しとなり、これにより経常経費が大幅な増額となったことが最大の要因となっています。

経常収支比率	99.6%
公債費負担比率	13.9%
財政力指数	0.51
勝山市(速報値)	99.6%
県内9市平均(速報値)	91.8%
勝山市	90.2%
県内9市平均	90.6%
全国平均	92.0%

一般会計 合計93億7,908万円



指標でみる財政事情

20年度	勝山市(速報値)	99.6%
20年度	県内9市平均(速報値)	91.8%
19年度	勝山市	90.2%
19年度	県内9市平均	90.6%
19年度	全国平均	92.0%

財政健全化判断比率

実質赤字比率	—
連結実質赤字比率	—
実質公債費比率	10.6
将来負担比率	107.5
勝山市	—
早期健全化基準	14.10
早期健全化基準	19.10
早期健全化基準	25.0
早期健全化基準	350.0
県内9市平均(速報値)	—
県内9市平均(速報値)	—
県内9市平均(速報値)	12.4
県内9市平均(速報値)	99.9

平成19年6月に公布された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律(財政健全化法)」に基づき、上記指標を算定しました。この指標は、地方公共団体の「早期健全化」と「財政再生」の2段階で財政悪化をチェックするとともに、特別会計や一部事務組合等も併せた連結決算により地方公共団体全体の財政状況を明らかにしようとするものです。

勝山市はいずれの項目においても、早期健全化基準を大きく下回り、健全であるといえます。(詳しくは、勝山市ホームページをご覧ください)

質赤字が標準財政規模に占める割合。

【実質公債費比率】一般会計等が負担する市債等の償還金が標準財政規模に占める割合。

別居している子どもを持つ家庭に例えると、親のローンのほか子どものローンを親が肩代わりして返済している場合、その返済金の合計が、親の給料総額に対してどの程度占めるかをあらわしたものです。

【将来負担比率】一般会計等が将来負担すべき債務が標準財政規模に占める割合。

別居している子どもを持つ家庭に例えると、親のローンの残高、子どものローンの残高(親が肩代わりして返済する額)、家族の将来の冠婚葬祭などに係る経費の総額から、それに充てることができる財源(貯金など)を差し引いた額が、その年の給料総額に対してどの程度占めるかをあらわしたものです。

特別会計

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差し引き
育英資金	4,404万円	4,179万円	225万円
下水道事業	12億5,627万円	12億5,436万円	191万円
農業集落排水事業	2億9,955万円	2億9,606万円	349万円
簡易水道事業	7,727万円	7,727万円	—
国民健康保険	25億7,190万円	24億8,348万円	8,842万円
老人保健	3億4,667万円	3億4,134万円	533万円
後期高齢者医療	3億287万円	3億142万円	145万円
介護保険(保険事業勘定)	23億6,156万円	23億5,243万円	913万円
介護保険(介護サービス事業勘定)	1,097万円	1,097万円	—
市有林造成事業	3,907万円	3,897万円	10万円

市有財産の状況

(平成21年3月31日現在)

建物	14万4,773㎡
土地	2,253万1,967㎡
立木	23万7,121㎡
基金	—
現金・預金等	26億3,403万円
うち財政調整基金	13億9,902万円
うちその他の基金	12億3,501万円
土地	3,262㎡
有価証券	3億1,400万円
出資金	3億8,249万円
債権	2億235万円

※用語解説

【経常収支比率】 財政構造の弾力性(余裕)をあらわしたものの。毎年経常的に収入される財源のうち、人件費・扶助費・公債費など、毎年必ず支払う経費の割合。

1か月の家計に例えると、食費や家賃、光熱水費、ローン返済など毎月決まって支払わなければならない経費の合計が、給料総額に対してどの程度占めるかをあらわしたものです。

【公債費負担比率】 一般財源のうち市債等の償還金に充てる経費の割合。

1か月の家計に例えると、給料総額に対してローンの返済額がどの程度占めるかをあらわしたものです。なお、ここでは副業は含まず、自家用車のローンなど生活にかかわるローンだけを考慮します。

【財政力指数】 地方公共団体の財政力をあらわしたものの。

一般の家庭に例えると、子どもが別居している場合、標準的な生活費(家賃や食費など)に対する標準的な収入(給料など)の割合です。なお、標準的な生活費と標準的な収入の差額で不足が生じると親からの仕送り(普通交付税)が必要となります。

【標準財政規模】 地方公共団体が自由に使える財源の標準的な収入。

【実質赤字比率】 一般会計等の実質赤字が標準財政規模に占める割合。

サラリーマン家庭に例えると、一年間の収入と支出の差引において赤字が生じた場合、赤字額がその年の家庭の給料総額に対してどの程度占めるかをあらわしたものです。

【連結実質赤字比率】 全会計(一般会計等だけでなく、その他の特別会計を含む)の実